

## 広島大学・新型インフルエンザ対策行動計画について

この度の新型インフルエンザ対応を踏まえ、広島大学リスクマネジメント検討会議において従来より検討を進めてきた行動計画に加え、上記行動計画を策定したのでお知らせします。

なお、この行動計画は危機管理マニュアルに追加するとともに、状況の変化、経験を重ねることにより、逐次改訂するものといたします。

# 広島大学・新型インフルエンザ対策行動計画

本行動計画は、国、文部科学省等の定める新型インフルエンザ対策行動計画に基づいて策定する。

なお、発生段階における注意点は下記のとおりである。

- 国及び都道府県等からの情報、指導等を収集し、発生段階においては国及び都道府県の判断に従う。
- 感染拡大防止につとめ、不要不急の活動等を自粛するなど適切な対策を行う。
- 構成員への情報連絡はメール、ホームページ、電子掲示板を基本とする。
- 新型インフルエンザの発生状況等により随時見直しを行うものとする。

## I 前段階(未発定期)

- ① 危機管理対策会議の設置
- ② 新型インフルエンザの情報収集と発信体制の確認
- ③ 対策会議による新型インフルエンザ発生に備えた行動計画の策定
- ④ 一般的感染予防法の情報提供

## II 第一段階(海外発定期)

- ① 必要物品の備蓄
- ② 外務省等の情報を参考にして危険地域からの渡航制限
- ③ 発生国に滞在する構成員の状態の把握、連絡
- ④ 危険地域からの帰国者に関する情報集約

## III 第二段階(国内発生早期、広島県以外)

- ① 危機管理室設置の検討
- ② 休講（講義、実習、課外活動等の中止）の検討
- ③ 休講の場合自宅待機を基本とし、最低限の業務維持の教職員だけを出勤させる
- ④ 入学試験、スポーツ大会、学会等の行事の延期の検討
- ⑤ 寮生、下宿生、留学生の帰省の検討。ただし発生地域への帰省は原則禁止

## IV 第三段階(感染拡大期・まん延期)(県内での発生時も含む)

- ① 危機管理室設置
- ② 原則休講
- ③ 入学試験、スポーツ大会、学会等の行事の延期
- ④ 継続の必要な研究活動等と認められた関係者以外の登校自粛

## IV特 新型インフルエンザ学内患者、学内接触者の発生

- ① 危機管理室による大学閉鎖の判断
- ② 継続の必要な研究活動等と認められた関係者以外の登校禁止
- ③ 感染者、接触者に関する情報集約
- ④ 相談窓口の設置

## V 第三段階(回復期)

- ① 大学閉鎖を継続し、全学生・全教職員の自宅待機を継続する。
- ② 危機管理室による情報収集
- ③ 学生・教職員への情報発信

## VI 第四段階(小康期)

- ①危機管理室による大学閉鎖解除の検討
- ②学生・教職員への情報発信・メンタルヘルス相談
- ③危機管理室による学生・教職員全構成員の安否情報の把握

### 付記【休講と閉鎖の定義】

大学休講：講義、実習・実験、サークル活動、ボランティア活動の停止及び学内の商業施設の閉鎖。学内のライフラインは全て正常機能を保ち、中断により支障を来すような実験は継続できる。

大学閉鎖：行政からの指導又は大学の自主判断で、実験生物の飼育を除いたほとんどの機能を停止した状態で、キャンパス内への出入りは原則禁止。キャンパスを管理する必要最小限の職員以外は入構できない。

### 参考

#### 新型フルの発生段階とその状態

世界保健機構（WHO）が提示したものを参考に、政府行動計画において決定された「発生段階と状態」は下表の通りである。

発生段階		状態
前段階（未発生期）		新型インフルエンザが発生していない状態
第一段階（海外発生期）		海外で新型インフルエンザが発生した状態
第二段階（国内発生早期）		国内で新型インフルエンザが発生した状態
第三段階		国内で、患者の接触歴が疫学調査で追えなくなった事例が生じた状態
(各都道府県の判断)	感染拡大期	各都道府県において、入院措置等による感染拡大防止効果が期待される状態
	まん延期	各都道府県において、入院措置等による感染拡大防止効果が十分に得られなくなった状態
	回復期	各都道府県において、ピークを越えたと判断できる状態
第四段階（小康期）		患者の発生が減少し、低い水準でとどまっている状態

#### 新型フルのまん延状況とフェーズの基準

世界保健機関（WHO）が定める定義

準備期	新型インフルエンザウイルスのヒトへの感染が見られない。動物のインフルエンザのヒトへの感染リスクは小さい。	フェーズ1
	新型インフルエンザウイルスのヒトへの感染は見られないが、動物で感染があり、ヒトへの感染リスクが高い。	2
危険期	新しいヒト感染が見られるが、ヒト-ヒト感染による拡大は見られない、非常に稀に濃密な接触により感染が見られる。	3
	ヒトでの小さな集団感染が認められる。広がりは地域的で、ウイルスがそれほどヒトに適合していない。	4

	ヒトでの大きな集団発生が認められるが、広がりは未だ地域的で、ウイルスがヒトに適合しつつあるが、完全ではない。	5
流行期	一般のヒト社会の中で感染が増加し、持続している。	6